

校長室だより

No. 5

平成 27 年 5 月 8 日(金)

強く やさしく

六ツ美中部小学校校長

かとうよしかず
加藤嘉一

体験を大切にする

過ごしやすい季節になりました。私事になりますが、親戚に農業を営んでいる人が何人かいます。先日のゴールデンウィークに、老父母と共に、私は何年かぶりでその親戚の家に行つて来ました。その時に、母が「畑で落（ふき）を取らせてもらつて行こう。」と言ひ出し、一緒に取りに行きました。

恥ずかしながら、食材としてはよく知っているものの、生えているものは初めて見ました。落を取るのも初めてです。大きな葉をしていて、背丈は 50cm くらいのものであったでしょうか。母親曰く、「切る時は、地面から 5~10cm 上を切るのだから。そうすると来年も生えてくるそうだよ。」よく言う昔の人の知恵。経験から学んでいることであり、さらに、



落（画像は yahoo!写真引用）

本校が大切にしている ESD（持続可能な開発のための教育）そのものの精神が生きている営みです。昔、母方の実家に行くと、「街中の子だから、〇〇をやったことがないだろう。」と時々言われ、当時は「生まれた場の環境ばかりは、自分でどうすることもできない。」と、少し悔しくも思いましたが、そう言いながら親戚の方々はいろいろなことを体験させてくれたり教えてくれたりしたので、今ではありがたい思い出と経験になっています。今の子供たちも、場合によっては私と同じではないでしょうか。



本日の田植え風景

前置きが長くなりました。本日 8 日（金）は、2・5 年生が田植えをします。本校は、大変ありがたいことに学区の中で行えます。第 3 号でも御紹介した二村さん・成瀬さんの御好意で、田植え・稲刈りなどを実施することができます。東京など街中の学校では、田植え体験をするためにわざわざ遠くの地方へ出向き学習を位置づける場所があると聞きました。それだけこうした体験に価値を感じ、学習や行事として教育課程を組む学校があるということです。市内でも、実施できない小学校はいくつもあります。

昨今では、「知識の伝達だけでは、学びとして十分でない」ことが議論されたり、子供を取り巻く環境の変化から体験的な活動の必要性和価値が唱えられたりし、体験的な活動を取り入れた学習が重視されました。一方で教科書のな

い学習として始まった総合的な学習の実践では、制度導入時、「体験ありきで学びなし」と酷評をされるような、体験をうまく学習のステージに生かしきれない場合があり、研究報告等の場で批判される実践があったようです。

本校では、もちろん基礎基本の定着を図りながら、体験的な活動も大切にしていけます。どんな学習であれ、「百聞は一見にしかず」「体験に勝るものはない」ことは明らかです。特に、小学校では、小さければ小さいほど理屈よりも体験から学ぶことの効果を実感する場面や、体験を基にした見方や考え方・感じ方が敏感で素朴である場面をよく見ます。何よりも黒板を前にした授業よりも心に残っているものです。中学校・高校と進むと、学習内容が抽象化していくことや授業時間が自由にならないことがあり、じっくり体験する機会が減っていきます。そして、体験を基にした考えには説得力があります。体験から得る一人一人のものの見方や考え方、感じ方は同じではないので、価値観のずれを共有することこそ、大きな学びとなります。授業者の腕の見せどころです。

さあ、今日、2・5年生は田植え体験からどんなことに気付き、考え、感じてくるのでしょうか。楽しみです。

【本年度の重点目標より】

(2) 経営方針

イ ESDプロジェクトを推進し、教材、教科、人、地域との「つながり」や「かわり」を基に、未来に対して責任のある生き方ができる子を育成する。

エ 日本の伝統文化や季節感を大事にし、本物に触れる、体験する活動を充実させ、郷土を愛する心を育てる。

(3) 本年度の重点努力目標

ウ ちゅうぶがだいすきな子を育てる

- ・地域の人から学ぶ活動や地域の人とともに行う活動と、六ツ美中学校との兄弟学級の交流、校内での異年齢交流を充実し、地域の人と学ぶ活動を重視する。
- ・地域の自然を見つめたり、自然の中で体験したりする活動を大切にする。

特色ある緑化委員会の活動

本校は、御存知のとおり FBC (フラワーブラボーコンクール) で最優秀賞を取るほど、緑化活動に力を入れています。緑化委員会が、先日もサルビアやマリーゴールド等の花の種をピンセットで分ける作業をしていました。これは、秋の花のための準備です。こうした先のことのための時間のかかる活動も、子供たちの貴重な学びの場です。

